

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

## II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 各専門分野の履修体系、より具体的には何が学べ、何ができるようになるかを入学時に明示する。	→各専門分野からのヒアリングとその成果を入学時オリエンテーションでの反映。	B	B			
2. 他大学院、他研究科との単位互換制度を踏まえて、多様な履修、研究の機会があることを在学生に対して周知する。	→他大学院、他研究科での履修者数の増加。	B	B			
3. 履修登録前に授業内容をより詳細に周知する。	→履修登録に際しての指導教員との事前(各学期開始前)面談、およびシラバスの標準化。	C	B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) 『大学院履修要項』を作成しこれをもとに教務学生委員より新入生向けにオリエンテーションを開催し、教育内容等についての説明を入念に行った。特に留学生の増大に伴い、日本語による修士論文の作成に向けて入念な研究計画を立てるよう指導した。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明) <del>シラバスは作成されているが、商学研究科の場合、研究領域が多様であり、その結果、履修者の専門知識の度合いが一律ではなく、必ずしもシラバスどおりの講義を行うことが望ましいとは言えない。</del> (意見交換後、削除。IV. 追加記述参照)
小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明) 成績評価と単位認定は適切に行われている。なお、全学的に大学院においても学業成績調査制度が導入されている(実績無し)。
小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→ → <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 各学期末において学生による授業評価を実施し、必要に応じてこれを教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけている。
その他	

《評価指標データ》

- 履修者数規模別の授業科目数 (少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次 Semester ごとの履修単位制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目 (平均点が70-75点) の比率
- GPA値 (全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業 (授業公開) の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率 (全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数 (査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

### Ⅲ. 学内第三者評価

#### ＜評価専門委員会の評価＞

##### 【学外委員】

○「目標」1は、中項目6.1に配置するほうが適切と思われます。

○「現状の説明」6.3.2について、現実を反映したシラバスの内容やあり方を検討することも必要ではないでしょうか。「学生が予習できるシラバス」が望まれます。

##### 【学内委員】

○シラバスの意義について、目標3で述べられていること、「現状の説明」6.3.2で述べられていることにずれがあります。

○小項目6.3.1の現状説明は、ここで求められている現状の説明になっていませんので修正してください。小項目6.3.2では、シラバスの現状（内容など）について説明してください。またこの項目の説明として適切なものかどうか疑問があります。小項目6.6.3の説明にある「成績疑義制度」というのは正しい名称ではないと思われます。確認と修正が望まれます。

○小項目6.3.1、については、本記述では十分に伝えておらず、現状が分かりません。

○小項目6.3.2については、大学基準協会の留意事項に沿った説明が求められます。

○小項目6.3.4については、大学基準協会の留意事項に沿った説明が求められます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかりやすく説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことがわかる必要があります。そのためにも、全小項目についてももう少し詳しく現状説明されることを希望します。

・小項目6.3.2の現状説明において、シラバスの現状（内容や作成率など）についての説明を希望します。

・6.3.1の項目の現状説明は当該小項目の内容と、一致していません。

・小項目6.3.3の現状説明は、もう少し詳しい記述が望まれます。

##### 【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」

達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性

・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み

・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

目標1を6.1中項目へと移動するようにとのご指示ですが、目標の変更はできないとお聞きしていますので、そのままとしています。

《現状の説目》小項目6.3.1の（説明）につづき挿入

「研究職コースについては、入学出願時に確定した指導教授を委員長とした博士論文指導委員会を設置し、博士論文指導および後期課程進学のために必要とされる「主文野外科目」を指示し、博士論文研究準備計画書を提出させ、その進捗度に応じて定期的に学習指導している。専門学識コースについても、研究演習を通じて指導教授が修士論文に必要な履修科目を指示し、修士論文作成の進捗度に応じて定期的に学習指導をしている。また、・・・」

《現状の説明》小項目6.3.2の（説明）を削除、変更

★「シラバスは大学の基準に基づいて全科目に課されており、授業の目的、授業内容および授業方法、成績評価方法および基準、学生による授業評価の方法を記載し、ホームページにおいて公表、周知されている。「学生による授業に関するアンケート」を実施し、学生からの授業評価を受けている。商学研究科の場合、6分野に分かれており研究領域が多様であり、科目によっては履修人数が少なかったり、中国からの留学生が過半数であったりして、年によって履修者者の構成が大きく異なることがある。その結果、履修者の専門知識の度合いが一樣ではなく、年度によっては必ずしもシラバスどおりの講義を行うことが望ましいとは言えないことが授業開始後に判明する場合もあり、適宜、学生にふさわしいシラバスを再作成し学習指導を行うこともある。」

《現状の説明》小項目6.3.3の「成績疑義制度」を「学業成績調査制度」に修正

《現状の説明》小項目6.3.4に追加記述

「・・・なお、研究職コースについては、指導委員会からの報告書によって進捗度を把握し、定期的に検証し、学習指導に役立てている。」